



加藤由希子選手の金メダル2個

仙台大学 広報室

Monthly Report

～Be more academic and global～

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」 で4タイプ全てに選定される



昨年度から教育改革等に積極的な私立大学に対する助成拡充の一環として開始された文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」において、本年度助成に関し、仙台大学は、昨年度に引続き、同事業が設定する事業タイプの全てが選定されました。昨年度はタイプ1～タイプ3の3タイプ、本年度はタイプ1～タイプ4の4タイプについての全タイプ「選定」となりました。

平成26年度は、日本の私立大学、短大、高専など申請した745校のうち、選定となったのは412校であり、4つのタイプ全てが選定されたのは全国で本学を含む8大学（仙台大学、青森中央学院大学、国際医療福祉大学、明海大学、芝浦工業大学、女子美術大学、金沢工業大学、福岡工業大学）のみでありました。

この事業は、大学教育の質的転換、地域貢献、産学連携、およびグローバル化という、現在、大学が時代から要請されている重要事項について全学的・組織的に取り組んでいる私立大学等に対する支援を強化するため、大学教育の質向上その他各事業の主要項目について取組内容を点数化し、申請大学に各項目の取組状況を自己評価させ、その獲得点数が一定基準を上回る場合に選定対象として認定し、選定対象となったタイプについて、経常費・設備費・施設費を一体として50%を大幅に超える補助率を適用し重点的に支援するものです。従って、認定の有無は大学改革への取組みに対する評価指標ともなるものです。

本年度は、支援内容のうち「教育研究活性化設備整備費補助金」については、タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」＝「語学自習システム」・タイプ2「地域発展」＝「地域貢献のための漕艇器具等」・

< 目 次 >

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」で4タイプ全てに選定される	1
陸上競技部、加藤由希子選手(健康福祉学科3年)が仁川アジアパラ大会・女子砲丸投げで世界新記録樹立	2
2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)を開催	3
2014東北こども博を開催—子どもたちの笑顔あふれる	4
元気！健康！セミナーin七ヶ宿—仙台大学方式 元気体操を紹介	5
学生の競技結果等	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

タイプ3「産業界・他大学等との連携」＝「足漕ぎ車椅子関連測定機器」関矢准教授による東北大学共同研究対象・タイプ4「グローバル化」＝「携帯型インボディ（中国青海省体育科学共同研究）」の各設備について整備することとなっております。今後は、それぞれ特色ある設備の有効活用により4つ

の事業タイプを着実に実施し成果をあげるとともに、大学教育の質の向上、地域社会への貢献その他時代が要請するところに十分応えることにより、さらに世界へ羽ばたく学術的な大学として歩んで参ります。



陸上競技部、加藤由希子選手(健康福祉学科3年)が仁川アジアパラ大会・女子砲丸投げで世界新記録樹立



左から藤井部長・朴澤理事長・加藤選手・阿部学長＝仙台大学

「インチョン2014アジアパラ競技大会」の陸上・女子砲丸投げ（片腕切断・機能障害）で12m 21をマークし、世界新記録で金メダルに輝いた本学陸上競技部の加藤由希子選手（健康福祉学科3年一宮城・気仙沼女子高校出身）の共同記者会見が、10月30日（木）本学において開催されました。会見には、朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長・藤井邦夫部長・加藤選手が臨みました。

冒頭に阿部学長は「この度の加藤選手の金メダル2個は、国民の皆様への一足早いクリスマスプレゼントであり、被災地気仙沼の方々に希望と夢をもたらしたと思う。今後も藤井部長の指導の下、リオデジャネイロパラリンピックを目指すと確信している」と述べました。

藤井部長は「加藤は、やり投げ・円盤投げ・砲丸投げの日本記録保持者でもある。上り調子で、これからが楽しみな選手。2年後のリオデジャネイロパラリンピックでも戦える力は十分ある。2020年の東京パラリンピックも視野に入れて頑張ってもらいたい」と話しました。

左腕が義手の加藤選手は、「私は気仙沼市の出身です。被災地でありながら多くのご支援・応援を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。2020年の東京パラリンピックまで競技を続け、東京パラリンピックの砲丸投げで世界新記録を更新して金メダルを獲得することが目標です」と感謝の言葉とさらなる活躍を誓う言葉を述べました。

なお、この様子は、当日20時45分～NHK仙台放送局「ニュースみやぎ845」で放映、翌日の河北新報社をはじめとする各紙朝刊に掲載されるなど、テレビ局・新聞社からの注目が高まっています。

引き続き、加藤選手への熱い応援をよろしくお願い致します。

硬式野球部、熊原健人投手(体育学科3年)が「侍ジャパン21U代表」に選出

10月27日（月）、本学硬式野球部の熊原健人投手（体育学科3年一宮城・柴田高校出身）が、「第1回IBAF 21Uワールドカップ」＜台湾・台中、2014年11月7日（金）～11月16日（日）＞に出場する野球日本代表「侍ジャパン21U代表」の24人に選出されました。

21Uワールドカップは、21歳（1993年以降に生まれた）以下の選手を対象とした、今年、新たに開催される世界大会で、プロ・アマチュア（大学・社会人）の混成チームです。

大学日本代表に引き続き、ここ柴田町から世界にチャレンジする熊原投手へ温かいご声援をよろしくお願い致します。



＜熊原健人投手のコメント＞

7月は大学日本代表となり、今回はプロ・アマ混成メンバーの日本代表に選ばれたことを非常に嬉しく思います。国際大会は、1球で勝負を分けるので、1球1球こだわって投げたいと思います。チームの勝利に貢献できるよう頑張ります。応援よろしくお願い致します。

2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)を開催



本田敏秋遠野市長の講演の様子＝仙台大学

日本芝草学会主催(会長：小笠原勝宇都宮大学)の2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)が10月3日(金)から3日間仙台大学をメイン会場として開催されました。

芝草学会は、1983年に設立された芝草ならびに緑化に関する諸事業の発展に寄与することを目的とした学術団体です。会員の構成は、大学・試験研究機関の研究者のほか、各分野の実務者が多く、格式張らない『身近な学会』と定評があります。

大会第1日目は、55名の参加者とともに蒲生～岩沼の沿岸をバスで巡回視察しながら、仙台市「海岸公園冒険広場」、岩沼市「千年希望の丘」、「西地区集団移転団地の芝生公園」では各市役所の担当部署職員の説明を聞きながら、また車中では過酷な条件の中生き延びた語り部さんの説明に耳を傾けて、映像や紙面では捕え難い現場の雰囲気把握して、翌日からの討議の参考にしました。また、グランディ・21(宮城県総合運動公園)と仙台大学の洋芝の生育状況と維持管理機械を視察しました。さらに、同日並行して泉パークタウンゴルフ倶楽部において、36名の参加者が震災後の維持管理状況を視察プレーしました。

大会2日目は、午前中に二つの部会が開催されました。ゴルフ場部会では「東北地域のゴルフ場での様々な取り組み」をテーマに公園緑地部会では「阪神淡路大震災における公園緑地の役割と運営について」をテーマに講演をいただきました。午後の一般公開シンポジウムでは、「防災や復興における芝生地の役割」をテーマに基調講演を「震災復興におけるまちづくりの具体的取り組み」として中央大学教授の石川幹子氏から、「遠野市の沿岸被災地後方支援」として岩手県遠野市長の本田敏秋氏から、「震災復興の進捗状況と

課題」として仙台市百年の杜推進課長の佐々木亮氏から講演をいただき、引き続きシンポジウムと質疑応答を行いました。震災復興における芝草の意義を大いに議論しました。

夕方から情報交換会が本学学生食堂で行われ、多数の参加者があり、議論と懇親を深めました。2日目の参加者は、一般参加者の他に多数の学生の参加があり、約160名でした。

大会3日目は、午前中に二つの部会が開催されました。校庭芝生部会では「東北地方での校庭芝生化事例の検証」をテーマに講演を、グラウンドカバープランツ緑化部会では「心の復興/メンタルヘルスと緑素材、緑地利用について考える」をテーマに話題提供をいただきました。

午後の一般公開特別講演では、「各種競技場の整備とそのあり方」として(株)東洋グリーン秋篠周太郎氏から、「1982年スペイン大会から9回連続W杯視察とブラジル大会1か月の滞在を踏まえて」として日本ウエルネススポーツ大学教授の松本光弘氏から講演をいただきました。3日目の参加者は、一般参加者の他に多数の学生の参加があり、約150名でした。

多くの参加者から内容の濃いしかも盛大な大会であったとの身に余る光栄な言葉をいただき、大会の成功と本学が社会貢献の一助になったことを感じました。

最後に、大会運営副委員長のわたくし小島から天候に恵まれたこと、多くの参加者、講演者、後援・協賛をいただいた各種団体、そして大会の準備にご苦勞をされた運営委員の皆様へ感謝を申し上げ閉会となりました。

来年度の春季大会は6月に日本大学で、秋季大会を秋に琉球大学を会場に開催する予定です。

＜記事：小島文雄コンサルタント
(仙台大学体育施設) 提供＞



2014東北こども博を開催—子どもたちの笑顔あふれる



学生ボランティアとけん玉を楽しむ小学生＝仙台大学第二体育館

10月12日（日）・13日（月・祝）の二日間、「震災復興」と「子どもたちの笑顔」をテーマに、「2014東北こども博」（主催：東北こども博実行委員会、後援：文部科学省／宮城県／仙台市教育委員会など）が本学を会場として開催され、両日合わせて約17,100名の方々がご来場下さいました。

4回目を迎えた今年の「東北こども博」は、子どもた

ちに、遊んで、からだを動かし、元気になってもらおうと全国の玩具メーカーや地元企業約70社が協賛。キャラクターによるステージショー、玩具やゲームが体験できる「トイホビー」、野球やサッカーなどの競技に挑戦できる「スポーツ」、グルメ屋台などが並ぶ「お祭り」、コンセプトカーに乗っての記念撮影・宇宙飛行士トレーニング体験・杉山美沙子さん（元プロテニスプレーヤーである杉山愛さんの母）による「こどもの力を伸ばす10の黄金法則—楽しい親子の関わり—」と題した講演会など「地域連携企画」の4つのエリアで構成された多彩な催しが行なわれ、各会場は親子連れなどで賑わっていました。

約350名の学生ボランティアが二日間に渡り「東北こども博」を支え、盛り上げました。トイホビー広場で学生ボランティアとけん玉を楽しんでいた名取市立愛島小学校5年の男子児童は、「久しぶりにけん玉をしました。大学生のお兄さんが優しく教えてくれて楽しかったです」「こども博は毎年楽しみにしています。特にトイホビー広場とスポーツ広場がお気に入りです」と話しました。

2014仁川アジア大会ボートで金のOB大元選手と銀のOB西村選手が来校—さらなる飛躍を誓う



OB大元・OB西村の両選手を囲む大学関係者ら＝学長室

10月12日（日）、韓国・仁川で開催されたアジア大会のボート男子軽量級ダブルスカルで金メダルに輝いたOB大元英照選手おもとひでき＜写真左から3番目＞（アイリスオーヤマー平成19年体育学科卒—宮城・塩釜高校出身）

と同男子エイトで銀メダルに輝いたOB西村光生選手にしむらみつお（NTT東日本—平成24年体育学科卒—愛媛・宇和島水産高校出身）＜右から3番目＞が本学漕艇部の阿部肇監督

＜右から2番目＞と共に、メダル獲得の報告に学長室を訪れました。

阿部芳吉学長＜左から2番目＞、仙台大学同窓会の鈴木省三会長＜右端＞及び柴田町ボート協会の児玉裕雄会長＜左端＞から大元・西村の両選手に対し、労いと称賛の言葉が贈られました。

3大会連続金メダルを獲得した大元選手（2006年アジア大会の同種目、2010年アジア大会の軽量級かじなしフォア）は「これまでの結果は、大学時代に恵まれた環境と良い指導者がいたことが大きい。

（2年後の）リオデジャネイロ五輪に出場することを競技生活の集大成としたい」。アジア大会に初出場となった西村選手は「大学に入って、正しいトレーニング方法や食事・栄養に関する知識を身に付けた。世界で戦うには、パワーもスタミナも足りない。リオデジャネイロ五輪出場が目標」とさらなる飛躍を誓いました。

その後両選手は、「東北こども博」で本学漕艇部が実施した「エルゴメーター（陸上でボートを漕ぐ動きを体験できる機械）体験」で自ら子どもたちにローリングのお手本を示すなどボートの楽しさを伝えていました。

元気！健康！セミナーin七ヶ宿—仙台大学方式 元気体操を紹介



仙台大学方式の元気体操を実演する齋藤新助手
＝七ヶ宿町活性化センター

10月19日（日）、七ヶ宿町活性化センター及び同保健センター（宮城県七ヶ宿町）で「元気！健康！セミナーin七ヶ宿」（主催：河北新報／共催：宮城県医師会他）が開催されました。同セミナーは、七ヶ宿の町民のQOL（生活の質）を高めることを目的としています。

本学の齋藤まり新助手が「自分らしく元気に年を重ねていくために～仙台大学式元気体操の楽しみ方～」と題して、楽しく健康づくりできる体操を実演しながら

ら紹介しました。また、本学の柳澤麻里子・松浦里紗の両新助手が、健康づくり運動サポーター（※）の資格を有する本学の学生らと一緒に骨密度とインボディを測定し、適切なアドバイスを行ないました。仙台大学式元気体操の楽しみ方及び骨密度とインボディの健康測定には、約50名の七ヶ宿町民の皆様がご参加下さいました。

齋藤新助手は「健康な体を維持するためには、運動の継続が大事。楽しく歌いながら、笑いながら、運動して頂けるよう心掛けました」と話し、「七ヶ宿町は高齢化率の高い地域です。今後も健康づくりの活動を広げ、宮城県民の健康寿命に貢献できるように楽しい運動を提供していきたい」と抱負を語りました。

※「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム（実践）を修了することによって認定されます。地域密着型の「健康づくり運動サポーター」養成プログラムは、運動についての正しい知識をもち、「安全に」「元気よく」「明るく」「楽しい」運動指導のできるサポーターを養成し、体育系大学としての特徴を生かして、地域の健康づくりに貢献しようというものです。

第4回 しばたB級グルメフェスティバル



乳酸菌飲料の砂糖の量を実感してもらう砂糖水の試飲コーナー

10月5日（日）、秋の澄み渡る空の下、柴田町船岡城址公園において第4回しばたB級グルメフェスティバルが開催されました。今回、運動栄養サポート研究会ブースとして、「正しい水分補給を知ろう!!～スポーツの秋に向けて～」をテーマに、運動栄養サポート研究会紹介コーナー並びに水分補給についての試飲コーナーを設け、出店しました。運動栄養サポート研究会紹介コーナーでは、運動栄養サポート研究会についての説明をはじめ、栄養サポート活動の様子の写真や、活動で使用している食事調査用紙、運動栄養学科10周年記念誌などの

展示とともに、実際に大学生アスリートに提供しているドリンクの試飲コーナーも設けました。ご来店いただいた中には、仙台大学の卒業生や地域健康づくり運動サポーターの教室に参加してくださっている地域の方々が来場し、貴重なお話を聞くことができました。水分補給についての試飲のコーナーでは、市販の清涼飲料水のエネルギー量を砂糖に換算し、ペットボトルに入れたものを展示しました。親子で来店された方々には、身近な清涼飲料水の飲み方について考えていただくきっかけをつくることのできたのではないかと感じています。全体の来場者数は約5500人と大盛況に終わり、運動栄養サポート研究会紹介コーナーには、こどもからご高齢まで約140人と多くの皆様にご来店いただきました。短い時間ではありましたが、活気あふれる柴田町をはじめ、日頃仙台大学を支えて下さっている地域の方々と交流することができ、仙台大学の取り組みを地域の方々に紹介する良い機会となりました。

今回の出店に際しまして、多大なるお力添えをいただきました柴田町商工会青年部の皆様をはじめ、B級グルメ事務局並びに運営スタッフの皆様にご心よりお礼申し上げます。

< 報 告 : 運動栄養学科 新助手 三品朋子 >

海外留学研修報告会・説明会



10月21日（火）、本学F棟101教室にて「海外留学研修報告会・説明会」が開催され、朴澤理事長をはじめ教職員、学生が多数参加しました。

報告会では、平成26年度前期に実施された「フィンランド スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」、「ハワイスクーリング アスレティックトレーニング研修アドバンスコース」へ参加した学生がそれぞれの成果を報告しました。本学との国際交流協定校であるカーニ応用科学大学にて実施された1ヶ月間の「フィンランド スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」に参加した2名は「文化の違いや言葉の壁にはじめは戸惑い失敗もしたが、それらの経験を通して、失敗を恐れずに挑戦することの大切さを学んだ。」と報告しました。「ハワイスクーリング アスレティックトレーニング研修アドバンスコース」へ参加した学生は、「献体解剖の授業を通して、実際に筋肉などを見て触れることで学びがよ

り深まった。」「大学生スポーツの規模が日本と違った。」と報告の最後に8名それぞれが研修の感想を発表しました。また、今回の研修実施期間にハワイ大学マノア校教育学部キネシオロジーアンドリハビリテーション科学学科（KRS）との国際学术交流に関する基本合意書の調印式および交流10周年記念式典も行われ、これらの現場に居合わせたことが「とても貴重な経験となった。」と述べる学生もいました。

報告会終了後に行われた平成26年度後期実施予定分の海外留学研修説明会では、「ハワイスクーリング アスレティックトレーニング留学研修ビギナーコース」「ハワイ大学 短期英語研修プログラム」「フィンランド スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」「カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日米スポーツ科学事情比較セミナー」「デンマーク国立リベルト大学における健康教育短期プログラム」「同 中長期プログラム」「台東大学 協定校短期交換留学プログラム」「中国 国費留学」の計8プログラムに関して国際交流センター企画委員より学生へ説明する時間がもたれました。報告会に引き続き、説明会でも海外留学や研修への参加を考えている学生たちが熱心に耳を傾け、留学を大学生生活の選択肢に新たに加えた学生もあり、異文化で学ぶ意欲が大学全体として広がりつつあります。

< 報 告 : 事業戦略室 遠山知寿 >

阿部芳吉学長、北上市・柴田町両議会議員交流会で講演



写真提供：柴田町議会事務局

10月23日（木）、阿部学長に姉妹都市である北上市・柴田町両議会議員交流会で、柴田町のホテルにて講演をして頂きました。

冒頭、仁川アジアパラ競技大会の女子砲丸投げで加藤由希子選手の世界新記録での優勝が報告され、賞賛の雰囲気は漂いました。演題は「地域を生かし、地域に生かされる大学～震災後の子どもたちの生き方を通して～」ということで、学長自身の教員時代や仙台市教育長などで培った豊富な実績と豊かな識見に基づい

た意義深いお話しを熱く語って頂き、参加者に感銘を与えました。

特に震災で子どもたちは大人になっている。しかし、まだまだ「こころのケア」が必要であり、大学の役割として継続的に寄り添っていくことが大事であるというお言葉が印象深く、心に残りました。

両市町の議員に対し、世の中を良くするために、教育をよく理解し、お金を掛けるべきと結ばれました。

なお、講演後開催された懇親会に仙台大学応援団・チアリーディングチームTwinkle（トゥインクル）の出演があり、両市町にエールを送って頂き、喝采を浴びたことを申し添えます。

< 寄 稿 : 柴田町議会議員
OB安部俊三（昭和47年体育学科卒） >

第10回健康福祉研究会



田中伸弥氏の実践報告の様子

10月25日（土）、「第10回健康福祉研究会」が本学C301教室を会場に行われ、卒業生、在学生、教職員、一般の方など、200名近い方々が参加されました。

「健康福祉研究会」は、介護や福祉、健康づくりなどの現場に勤める方と、健康福祉学科の卒業生・在学生・教職員等が相互に学習研鑽できる環境づくりの構築を目指し、平成16年度より開催してきたものです。今年度は、第10回という区切りの年ということで、「健康福祉学科教育の原点と人材養成」をテーマに、介護福祉士の仕事の広がりや可能性について卒業生の実践を通じた報告や講演を行いました。

阿部学長、大山学科長の挨拶の後、「介護福祉士教育の今」と題して山野准教授による基調講演があり、その中で健康福祉学科開設の意図と使命などが再確認されました。

続いて、次の6名の卒業生よりそれぞれ実践報告がありました。(1) 緑川義崇氏（平成23年卒／介護老人保健施設余目徳洲苑勤務）(2) 戸田佳代子氏（平成21年卒／青梅慶友病院勤務）(3) 二瓶さやか氏（平成19年卒／岩手県立大学大学院社会福祉学研究科在籍、ゆめさとデイサービス勤務）(4) 澤田明之氏（平成17年卒／仙台医療秘書福祉専門学校勤務）(5) 福田伸雄氏（平成17年卒／日高病院勤務）(6) 田中伸弥氏（平成15年卒／特別養護老人ホーム萩の風勤務）。どの卒業生の報告も、本学で取得した介護福祉士の資格を活かし、自分の信念をしっかりと持ちながらそれぞれの現場で活躍されていることがわかる内容でした。そしてより一層「介護」のあるべき姿を追求していこうとする姿勢がうかがえました。特に会場の在学生たちは、いきいきと自分の仕事や介護の魅力などについて語る先輩たちを見て、たくさんの刺激を受け、「自分もこうなりたい」という思いを抱いたことと思います。また、我々教員側も、このような卒業生の成長と活躍の様子を嬉しく思い、今後の学生教育をしていく上で大きな励みとなりました。

最後に、今回の健康福祉研究会で実践報告をいただきました6名の卒業生の方々のもとより、会の開催・運営等に際してご支援・ご協力をいただきました教職員の皆様へ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

<報告：健康福祉学科 講師 後藤満枝>

しばた健康まつり2014



10月11日（土）、柴田町役場保健センターで、「しばた健康まつり2014」が開催されました。

様々な催し物が用意されている中で、催し物の一つとして体操の時間があり、参加させていただきました。顔見知り同士が運動の時間に合わせて多数集まったこともあり、終始和やかな笑顔に包まれ、約140名の出席者は、頭の体操・下肢の筋力トレーニングなど思い思いにストレッチを楽しんでいました。

<報告：新助手 柳澤麻里子>

スリランカ、コロンボ報告Ⅲ—横川和幸元仙台大学教授



集団演技の一部です。



演技の最終部分で国旗を表現。



芝のトラックです。



表彰係りのスリランカ美人！です。

仙台は朝夕の冷え込みが厳しくなっているようです。こちらも少しは涼しくなり夜間のエアコンはいりません。しかし昼はまだまだ暑く女性は日傘をさして歩いています。

当地アヌラーダプラではナショナルスポーツフェスティバルが開催されています。また、陸上競技の会場にもなっており、スリランカ人の走りをじっくり観察できました。この競技場は非常に珍しい芝のトラックで、日本にはありません。開会式では指導校であるセントラルカレッジ1200人の学生による集団演技に観客は感動していました。

＜寄稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課 横川和幸＞

ハンドボール部、男女共に10年ぶりインカレ出場決定



男女共に10年ぶりのインカレ出場を決め、喜ぶ選手ら
=仙台大学第二体育館

9月28日（日）、平成26年度東北ハンドボール秋季リーグ最終戦が本学第二体育館行なわれ、仙台大学ハンドボール部は男女共に上位進出を果たし、インカレ出場を決めました。男子は10年ぶり18回目。女子は10年ぶり5回目のインカレ出場となります。

秋季リーグ戦で男子ベストセブンに選ばれた
たかはしかずき
高橋和希主将（写真：前列左から5番目）

（体育学科2年－北海道・函館工業高校出身）は「1・2年生主体のチーム。今後につながる収穫の多い大会にしたい。1勝以上を目指して、最善を尽くしたい」。同リーグ戦で女子ベストセブンに選ばれ

くわさわあや
た桑澤亜弥主将（写真：前列右から5番目）（運動栄養学科4年－東京・藤村女子高校出身）は「チャレンジャー精神で、1試合1試合思いっきりプレイしたい。悔いの残らないようインカレの舞台を思う存分楽しみたい」。就任3年目の桑原康平監督（写真：前列左から6番目・男女ハンドボール部監督）は「男女共にインカレ出場を目標に頑張ってきたので、その目標が達成でき嬉しい。対戦チームは全ての点で格上なので、胸を借りるつもりで臨みたい。全国レベルを肌で感じる大会にしたい」とインカレに向けての抱負を語りました。

平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会（インカレ）は、11月22日（土）～26日（水）まで、岐阜メモリアルセンター（岐阜県岐阜市）・ヒマラヤアリーナ（同）・各務原市体育館（岐阜県各務原市）で行なわれます。

引き続き、仙台大学男女ハンドボール部への熱い応援をよろしくお願い致します。

男子バスケットボール部、東北大学リーグ「優勝」 —2年ぶり13度目のインカレ出場を決める



写真提供：男子バスケットボール部

東北大学バスケットボールリーグで「優勝」し、2年ぶり13度目のインカレ出場を決めた男子バスケットボール部の選手ら=山形県体育館

10月11日（土）～10月13日（月・祝）の三日間、山形県体育館で「東北大学バスケットボールリーグインカレ予選」が行なわれ、本学男子バスケットボール部が見事「優勝」を飾り、「第66回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）」への出場権（2年ぶり13度目）を獲得しました。

得点王と最優秀選手賞に

しょうじゆうや
選ばれた庄司優也主将（体育学科4年－山形・羽黒高校出身）は「絶対負けたくないという強い気持ちで戦い続けたことが優勝の勝因。インカレではベスト8以上が目標。目標達成に向け一層練習に励みたい」。



庄司優也主将

チームを率いて5年目の村田健一監督は「選手間でミーティングを重ね、チーム力がひとつにまとまり、逞しく強いチームになったと感じる。インカレで一つでも多く勝つことを目標に頑張ってきた。何とか一泡吹かせたい」とインカレに向けての意気込みを語りました。

インカレは、11月24日（月）～30日（日）まで、国立代々木競技場第二体育館・大田区総合体育館・墨田区総合体育館で行なわれます。

引き続き、仙台大学男子バスケットボール部への温かいご声援を宜しくお願い致します。

女子柔道部、全日本学生柔道体重別団体優勝大会 —初の4強入りを逃すも堂々の6年連続8強入りを果たす



五将（48kg級）・渡辺選手が大内刈りを決める＝ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）

10月25日（土）、団体戦（7人制）で争う「全日本学生柔道体重別団体優勝大会（女子6回）」がベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）で開催されました。

本学女子柔道部は、シード校のため2回戦からの登場となりました。2回戦の対戦相手は、福岡大学。仙台大学は先制を奪われますが、五将（48kg級）・わたなべなるみ渡辺愛美選手（現代武道学科1年－栃木・白鷗大足利

高校出身）が「大内刈り」で有効を奪い、優勢勝ち。これで一気に流れをつかみ4 - 1で逆転勝ちを収め、見事準々決勝進出を決めました。

準々決勝の対戦相手は、体重無差別で争う6月の全日本学生柔道優勝大会（団体戦5人制）で、本学が1 - 1の代表戦の末に敗れた東海大学。9月の全日本学生柔道体重別選手権3位の中堅（57kg級）・くどうちか工藤千佳選手（現代武道学科3年－青森・五所川原農^{すずきまゆ}林高校出身）や同3位の三将（52kg級）・鈴木真佑選手（体育学科4年－京都文教高校出身）らが果敢に相手を攻めましたが、あと一歩のところポイントが奪えず惜しくも「引き分け」。仙台大学は、技術面・精神面でも攻めの姿勢を見せましたが、0 - 1で惜敗。また東海大学の前に屈しました。初の4強入りは逃しましたが、堂々の6年連続8強入りを果たしました。

南條和恵監督は「過去最強チームで臨んだ今大会。あと一歩のところだったが、攻めきれなかった。また一からチーム作りに励みたい。この大会で得た経験と悔しさをバネに、次こそ8強の壁を突破したい」と涙をこらえながら話しました。

引き続き、仙台大学女子柔道部への温かいご声援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部、齋藤恵太選手(体育学科4年)が福島ユナイテッドFC入団内定



左から朴澤理事長・吉井監督・齋藤選手・阿部学長＝仙台大学

10月30日（木）、本学で仙台大学サッカー部のFWさいとうけいた齋藤恵太選手（体育学科4年－宮城・聖和学園高校出身）の福島ユナイテッドFC入団内定記者会見が行なわれました。福島ユナイテッドFCからは竹鼻快GMが、本学からは朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長・吉井秀邦監督・齋藤選手が会見に臨みました。

最初に阿部学長は「齋藤選手は被災地山元町出身

なので、この度の福島ユナイテッドFC入団内定が山元町の方々に元気になって頂く大きなきっかけになると思う。幼い頃からサッカーのプロ選手を目指して努力・精進してきた齋藤選手には日本を代表する選手になり、後輩たちへの励みになってくれることを期待する」と挨拶しました。

吉井監督は「恵太はポテンシャルの高い選手。特に、足が速く、足元のドリブル技術も高い。相手に向かっていく性格で、非常にプロ向き。チームの雰囲気盛り上げる明るさも持ち味。日本代表を目指せる選手になってほしい」。竹鼻GMは「齋藤選手のことは、仙台大学との練習試合の時に知った。爆発的なスピードと得点をした時の喜び方を見て、面白い選手がいるなどと思った。そして、素直な心と聞く力を最大限評価している。彼と一緒に頑張っていきたい」と齋藤選手へ期待の言葉を述べられました。

齋藤選手は「夢の第一歩が実現して心から嬉しいです。仙台大学の関係者、家族、被災を経験している地元の仲間たち、そして、応援して下さいの皆様へ感謝しています。自分のゴールでチームの勝利に貢献し、子どもたちに目標とされる選手になりたいです」と心境と今後の抱負を述べました。